桂枝去桂加茯苓白朮湯が有効であった4例

山田 和美^a 及川 哲郎^a 齋藤 絵美^a
鈴木 邦彦^a 花輪 壽彦^{ab}

a 北里大学東洋医学総合研究所, 東京, 〒108-8642 港区白金5-9-1

b 北里大学大学院医療系研究科, 神奈川, 〒228-8555 相模原市北里1-15-1

Four Cases Successfully Treated with Keishikyoikeikabukuryobyakujutsuto

Kazumi YAMADA^a Tetsuro OIKAWA^a Emi SAITO^a
Kunihiko SUZUKI^a Toshihiko HANAWA^{ab}

a Oriental Medicine Research Center, Kitasato University, 5-9-1 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-8642, Japan

b Doctoral Program of Medical Science, Kitasato University Graduate School, 1-15-1 Kitasato, Sagamihara-shi, Kanagawa 228-8555, Japan

Abstract

We report four cases which were successfully treated with keishikyoikeikabukuryobyakujutsuto. Case 1 was a 53-year-old female who presented with a 15-year history of fatigue, headache and shoulder stiffness. After 1 month's treatment with keishikyoikeikabukuryobyakujutsuto, her complaints improved remarkably. Case 2 was a 29-year-old female who was suffering from allergic rhinitis. After 6 month's treatment with keishikyoikeikabukuryobyakujutsuto, her symptoms completely resolved. Case 3 was a 37-year-old female who was diagnosed with Ménière's disease. Some formulas had been prescribed before, but provided no relief. After the start of treatment with keishikyoikeikabukuryobyakujutsuto, however, the patient's symptoms resolved completely within 2 weeks. Case 4 was a 50-year-old female who presented with tension headache. After 2 week's treatment with keishikyoikeikabukuryobyakujutsuto, her headache had almost completely resolved. Most of the cases presented with slight epigastric tenderness and superficial-like symptoms such as headache and shoulder stiffness. Many of them also showed symptoms suggestive of fluid imbalances in the body, such as dizziness, rhinorrhea and teeth marks on both sides of the tongue. Keishikyoikeikabukuryobyakujutsuto is a useful formula for patients with superficial-like symptoms accompanied by disorders of the body fluid homeostasis.

Key words : keishikyoikeikabukuryobyakujutsuto, headache, shoulder stiffness, slight epigastric tenderness, body fluid imbalance

要旨

桂枝去桂加茯苓白朮湯が有効であった4症例を経験したので報告する。

症例1：53歳女性。15年来の倦怠感、頭痛、肩こりを主訴に来所。歯痕舌、心下の圧痛が見られたため桂枝去桂加茯苓白朮湯を投与したところ、主訴が著明に改善した。症例2：29歳女性。アレルギー性鼻炎のため来所。首や肩のこり、鼻閉、くしゃみ、心下の圧痛を目標に桂枝去桂加茯苓白朮湯を処方した。6カ月で症状が消失した。症例3：37歳女性。メニエール病のため来所。数種類の漢方方剤を試すも無効であったが、首や肩のこり、めまい、心下の圧痛を目標に桂枝去桂加茯苓白朮湯を処方したところ、2週間で症状が消失した。症例4：50歳女性。緊張型頭痛を主訴に来所。首や肩のこり、立ちくらみ、心下の圧痛を目標に桂枝去桂加茯苓白朮湯を処方したところ2週間で頭痛が軽快した。桂枝去桂加茯苓白朮湯は表証様の症状に水毒症状を兼ねた症例に広く有用であることが示唆された。

キーワード：桂枝去桂加茯苓白朮湯、頭痛、肩こり、心下満微痛、水毒

緒言

桂枝去桂加茯苓白朮湯は『傷寒論』を出典としており、表証様の症状と水毒症状、および「心下満微痛」を目標に使用される。今回我々は、桂枝去桂加茯苓白朮湯が有効であった4症例を経験したので報

告する。

症例

症例1：53歳、女性。

主 訴：倦怠感、頭痛、肩こり。

既往歴：特記事項なし。

家族歴：母，胃癌。姉，卵巣癌。

現病歴：15年前から疲れやすい，眠りが浅く朝起きられない，頭痛，肩こりなどの症状が出現した。3年前より当研究所で鍼治療を受けており，それらの症状は改善してきているが，鍼に加え湯液での治療を希望し，2007年3月，漢方診療部を受診した。

現 症：身長151cm，体重49kg，体温36.5℃，血圧112/70mmHg。

漢方医学的所見：自覚症状として，疲れやすい，頭痛，汗はあまり出ない，首肩こり，足の冷えを認めた。小便は1日5回，大便は2日に1回。脈は沈，虚，舌は湿，紅色，著明な歯痕を認め，薄白苔で覆われていた。腹力は中等度で腹満を認めた。心下はふっくらと盛り上がっており圧痛をわずかに認めた。他覚的な足の冷えはなかった。

経 過：初診時，頭痛，首や肩のこりおよび歯痕舌などの所見を目標に，桂枝去桂加茯苓白朮湯（茯苓6g，白朮3g）を処方した。内服開始2週間後に水様性の下痢が出現したため一時内服を中止したが，軽快後再び内服しはじめた。1カ月後，倦怠感が取れ，頭痛が軽くなった。3カ月後，肩こりが改善。夜よく眠れるようになった。歯痕が取れないため茯苓を12g，白朮を8gに増量した。5カ月後，頭痛はなく，肩こりも軽減。倦怠感は消失し，歯痕も軽減した。現在内服を開始して1年たつが，症状の再発を見ていない。

症例2：29歳，女性。

主 訴：鼻汁，鼻閉。

既往歴：特記事項なし。

家族歴：母，高血圧症。

現病歴：1999年2月，鼻汁，鼻閉が出現したが，風邪だと思い放置していた。同年8月，症状が軽快しないため近医を受診し，アレルギー性鼻炎と診断された。アレルギーは同定できなかった。ステロイド点鼻薬を使用し，抗アレルギー剤を内服していたが，同年11月，漢方薬での治療を希望し，当研究所を受診した。

現 症：身長161cm，体重38kg，血圧118/70mmHg。

漢方医学的所見：自覚症状として，寝つきが悪く途中で目が覚める，夢をよく見る，疲れやすい，のどが渇く，水分をよく取る，皮膚がかさかさしてかゆみがある，首や肩がこるを認めた。小便は1日

5，6回，大便は1日1，2回。脈は沈，数。舌はやや乾，胖大で皸裂と舌下静脈怒張を認めた。舌苔は見られなかった。腹力は虚で，心下痞硬，中脘の圧痛，胃内停水，臍上から臍下にかけての腹部動悸，小腹不仁，臍上の正中芯を認めた。他覚的な足の冷えがあった。

経 過：初診時，不眠，のぼせ，皮膚乾燥などより黄連阿膠湯去雞子黄を処方した。鼻閉は改善し，調子が良いとのことであった。しかし4カ月後，再び鼻閉，鼻汁，くしゃみが増したため，心下部の圧痛，胃内停水，首や肩のこりなどを目標に桂枝去桂加茯苓白朮湯（茯苓8g，白朮8g）に転方した。転方2カ月後，鼻閉は軽快し，比較的楽に過ごせたとのことであった。転方6カ月後，鼻閉はなくなった。転方10カ月後，風邪を引いたとき以外は鼻汁，鼻閉は出現しなくなった。その後は症状の再燃なく，合計1年10カ月間内服し廃薬とした。

症例3：37歳，女性。

主 訴：耳閉感，めまいを予防したい。

既往歴：31歳，卵巣嚢腫手術。

家族歴：特記事項なし。

現病歴：2001年3月，耳閉感と回転性のめまいが出現，某医大病院耳鼻科を受診しメニエール病と診断された。ビタミンB12製剤の内服で一時症状は軽快したが，再び耳閉感が出現したため，同年5月，当研究所を受診した。

現 症：身長156cm，体重49kg，血圧102/72mmHg。

漢方医学的所見：自覚症状として，首や肩がこる，顔・足のむくみがある，乗り物酔いしやすい，手足が冷え，顔はほてるなどを認めた。便秘のため水分を1日2リットル飲んでいて，小便は1日10回，大便は1日1回。脈は沈，舌は湿，淡紅色で薄白苔を認めた。腹力は中等度で臍傍の圧痛を認めた。心下痞硬，心下満微痛は認められなかった。

経 過：初診時，水毒をうかがわせる症状や冷えなどから真武湯を処方した。その後，苓桂朮甘湯，柴胡加竜骨牡蛎湯，半夏白朮天麻湯を試みたが症状は軽快しなかった。

初診より1カ月半後，首や肩のこり，下肢のむくみなどの水毒症状，「下腹が膨れて重い」という訴えなどから桂枝去桂加茯苓白朮湯（茯苓3g，白朮3g）に転方した。転方2週間後には耳閉感，めま

いが全く無くなった。その後、一時的に耳閉感が出現した他は良好な経過をたどった。6カ月間服用し廃薬した。

症例4：50歳，女性。

主 訴：頭痛。

既往歴：特記事項なし。

家族歴：特記事項なし。

現病歴：十数年前から頭痛を自覚していたが，10カ月前に閉経した頃から増悪した。近医で緊張型頭痛と診断され，NSAIDsや抗不安薬を頓用で内服していた。頭部MRIに異常はなかった。2007年6月，漢方治療を希望し，当研究所を受診した。

現 症：身長151cm，体重50kg，血圧138/88mmHg。

漢方医学的所見：自覚症状として，立ちくらみ，頭痛がひどいと嘔吐する，頭痛により夜間に目が覚める，水分をよく取る，首肩こりを認めた。小便は1日5回，大便は1日1回。脈は沈，舌は乾湿中間で淡紅色，薄白苔を認めた。腹力は中等度で軟，心下痞硬と臍上の腹部動悸を認めた。他覚的な足の冷えはなかった。

経 過：初診時，心下の圧痛，首や肩のこり，無汗などを目標に桂枝去桂加茯苓白朮湯（甘草1g）を処方した。内服開始2週間後，頭痛と頭痛による睡眠障害が軽快し，今まで毎朝鎮痛剤を服用していたが，それが不要になった。尿量は不変。2カ月後には頭痛の回数が毎日から週二回程度に減り，朝の頭痛が出現しなくなった。

考察

桂枝去桂加茯苓白朮湯は、『傷寒論』の太陽病上篇に「服桂枝湯，或下之，仍頭項強痛，翕々發熱，無汗，心下滿微痛，小便不利者，桂枝去桂加茯苓白朮湯主之。」¹⁾とあり，表証様の症状と水毒症状，および「心下滿微痛」を目標に用いられる²⁾。

この方剤は，桂枝湯の主薬である桂枝が去されていることが古来議論となっている。尾台榕堂は『類聚方広義』の中で，「既に桂枝湯を用い，或は之を下すと雖も，なお頭項強痛し，翕々として発熱止まざるは，これ桂枝湯証，依然として仍おあるなり。何ぞ桂枝を去るを得ん。況や主薬を去るの理なからん」と桂枝を去るべきではない，としている³⁾。また，去桂ではなく去芍薬の誤りであるという説もあり，呉謙は『医宗金鑑』で，桂枝は本証の表証を治

すため必要であるが，芍薬は心下の膨満があるため去った方がよいとしている⁴⁾。しかし現在では，去桂が正しいとの認識が大半である。奥田謙蔵は，

『傷寒論講義』の中で，「この諸証は，一見桂枝湯の証に類似せるも，桂枝湯証にあらず。実は初めより心下停水の致せる所にして，即ちその反射的症候に外ならず。故に桂枝湯を服するも治に至らず。

（中略）この方，解肌を事とせずして，逐水を主とす。これ，本方に桂枝を去り，苓朮を加えて，以って表散の力を弱め，逐水的作用を強力にする所以なり」と述べており，桂枝は諸薬をひきいて邪を上へと導いて発散する働きがあるため，茯苓や白朮による利尿の作用が妨げられるから桂枝をあえて去ったのだ，としている⁵⁾。

このように議論のある方剤のため，桂枝去桂加茯苓白朮湯は日本で使われた報告がほとんどなかったが，1972年に藤平⁶⁾が著効例を発表してから徐々に使用されるようになってきた。表は過去に報告された桂枝去桂加茯苓白朮湯の症例をまとめたものである^{6)~17)}（表1）。

風邪や頭痛，肩こりなどに使用されることが多く，特に関矢ら¹²⁾は本誌に頸肩腕症候群の4例をまとめて報告している。いずれの報告も効果発現までの期間が短く，一服から4日間の内服で効果を認めているのが特徴的である。発症からの期間の長短と効果発現までの期間との関連はなく，数カ月から年余にわたった症状であっても，数日で効果があつたとされている。なお，風邪のような急性疾患では，『傷寒論』に「小便利則愈」とある通り，利尿がついて治ることが多いようである。

今回提示した4症例では，これらの報告ほど効果発現が早くはなかったが，いずれも著効を得た。特に症例2のアレルギー性鼻炎，症例3のメニエール病の症例は過去に報告がなく，本方が風邪や頭痛・肩こり以外にも応用できることが示された。症例1は15年来の倦怠感，頭痛，肩こりの例だが，1カ月で効果を認めた。歯痕舌が軽快しないため茯苓と白朮を増量したが，これにより「体が軽くなった」「よく眠れるようになった」とQOLが改善した。なお，内服開始後2週間以下痢が出現したが，瞑眩としては出現時期が遅く，再開後は下痢の出現がなかったことから漢方薬の作用であったかどうかは不明である。症例2はアレルギー性鼻炎の症例で，鼻

表 1 桂枝去桂加茯苓白朮湯の主な報告

報告者	報告年	年齢	性別	主訴	おもな漢方所見	効果発現までの期間
松本(7)	2007	70	男	冷え、尿不利、心下部痛	頭痛、尿不利、心下部の痛み、湿舌	4日
蓮村(8)	2007	37	女	風邪	肩こり、頭痛、心下部の重苦しさ、湿舌	一服
蓮村(9)	2005	37	女	頭痛	肩こり、尿不利、心下部痠	エキス一服
向井(10)	2001	39	男	急性胃腸炎	発熱、悪風、尿不利、心下部膨満感	一服
鎌田(11)	2000	30前半	女	頭痛	尿不利	(2ヶ月で廃棄)
関矢(12)	1999	43	女	頭痛、頭重、腰痛	無汗、心下部、胃部振水音、腹直筋緊張、歯痕舌	1日
		42	女	頭痛、頭重、腰痛	無汗、心下部、胃部振水音、腹直筋緊張、歯痕舌	3日
		48	女	頭痛、頭重、肩こり	無汗、心下部、胃部振水音、腹直筋緊張、歯痕舌	4日
		53	女	頭痛、肩こり、耳鳴	無汗、心下部、胃部振水音、腹直筋緊張、歯痕舌	2日
森(13)	1997	28	女	発熱、腹痛	首肩こり、無汗、上腹部の圧痛	1日
蓮村(14)	1996	55	女	頭痛	肩こり、心下部満、尿不利、湿舌	一服
知(15)	1988	60代	女	頭痛、首肩こり、腹満		1日
		33	女	頭痛、肩こり		2日
		60代	女	肩こり		1日
土本(16)	1986	22	女	風邪	発熱、頭痛、首肩こり、無汗、尿不利	一服
鈴木(17)	1976	42	男	風邪	発熱、首肩こり、体のこわばり、心下の鈍い痛み	一服
藤平(6)	1972	25	女	風邪	発熱、首こり、汗なし、心下部振水音、心下部圧痛	1日
		63	女	めまい、首肩こり	頭鳴、腹部膨満、胃内停水	(不明)
		55	女	首こり		1日

閉, くしゃみ, 鼻水などが改善した。この症例では鼻閉などの改善とともに「体調が良くなった」と全身状態が改善したとの訴えがあった。症例3のメニエール病の症例は, 数種類の方剤で効果がなかった耳閉感やめまいが2週間で消失した。朮や茯苓の入った真武湯, 苓桂朮甘湯, 半夏白朮天麻湯では効果がなく, 桂枝去桂加茯苓白朮湯に変方してすぐに症状が消失したことは興味深い。症例4は緊張型頭痛の症例で, 10カ月続いていた頭痛が2週間で軽快し, 鎮痛剤を減量することができた。

桂枝去桂加茯苓白朮湯の投与目標として関矢ら¹²⁾は, 1) 無汗, 2) 舌の腫大・歯痕, 3) 心下痞・胃部振水音, 4) 気虚を挙げているが, 今回の症例では一部しか当てはまらなかった。なお4例とも脈は沈であったが, これは病態の主体が水毒であるためと考えられた。今回の4例に共通する所見としては, 首や肩のこりがあり, また4例中3例で心下満微痛あるいは心下痞鞭を認めた。本方剤を使用するには, 広い意味での「表証様の症状」, 「水毒症状」および「心下満微痛」を目標にすれば, アレルギー性鼻炎やメニエール病などさまざまな疾患に用いて効果があると考えられた。また, 症例1, 症例2では茯苓, 白朮を増量したことでより効果が高まった。水毒が強い症例では茯苓, 白朮を増量した方が効果的かもしれない。

桂枝去桂加茯苓白朮湯に関する報告はまだ少ないが, 頭痛, 肩こりなどの表証様症状に水毒症状を兼ねた症例に対し, 幅広く応用できる有用な方剤であることが示唆された。

結語

表証様の症状と水毒症状, 「心下満微痛」を目標に桂枝去桂加茯苓白朮湯を用い, 様々な疾患に対して効果を得たので若干の考察を加えて報告した。

附記 本稿で使用した桂枝去桂加茯苓白朮湯の構成生薬, 分量, 産地は以下の通りである。

芍薬 (4.0g, 奈良県), 茯苓 (4.0g, 北朝鮮), 白朮 (4.0g, 北朝鮮), 大棗 (4.0g, 河南省), 甘草 (2.0g, 内蒙古), 生姜 (0.5g, 四川省)。

文献

1) 日本漢方協会学術部編: 傷寒雑病論『傷寒論』『金

匱要略』(三訂版), 51, 東洋学術出版社, 千葉, 2000

- 2) 大塚敬節: 傷寒論解説, 180-183, 創元社, 大阪, 1966
- 3) 藤平健: 類聚方広義解説, 89-92, 創元社, 大阪, 1999
- 4) 呉謙: 医宗金鑑, 191, 中医古籍出版社, 中国, 1995
- 5) 中村謙介: 傷寒論演習, 98-102, 緑書房, 東京, 1997
- 6) 藤平健: 桂枝去桂加茯苓白朮湯証は意外に多い, 漢方の臨床, **19**, 705-709, 1972
- 7) 松本一男: 東洋堂経験余話 (181) 心下部痛と頭痛に桂枝去桂加茯苓白朮湯 腹の張りに厚朴生姜半夏甘草人参湯, 漢方の臨床, **54**, 1297-1299, 2007
- 8) 蓮村幸兌, 田畑隆一郎, 千田五月: 柴胡桂枝湯加桔梗石膏の二例, 漢方の臨床, **54**, 1128-1133, 2007
- 9) 蓮村幸兌, 田畑隆一郎, 千田五月: 頭痛その後…頭痛報告第2報 (2), 漢方の臨床, **52**, 1031-1040, 2005
- 10) 向井誠: 桂枝去桂加茯苓白朮湯加味, 痛瀉要方加味方, 柴胡疏肝散を用いた急性胃腸炎治療例一例, 漢方の臨床, **48**, 1507-1511, 2001
- 11) 鎌田慶市郎: 千葉東洋医学講座 (36) 壊病について, 漢方療法, **4**, 477-480, 2000
- 12) 関矢信康, 後藤博三, 寺澤捷年, 他: 桂枝去桂加茯苓白朮湯治験, 日東医誌, **49**, 871-876, 1999
- 13) 森由雄: 最近のカルテの中から (3) 一, 黄連阿膠湯による不眠の一治験例 二, 桂枝去桂加茯苓白朮湯の一治験例, 漢方の臨床, **44**, 961-963, 1997
- 14) 蓮村幸兌: 閉経前, 閉経後, 常習頭痛の変化, 漢方の臨床, **43**, 547-552, 1996
- 15) 畑靖子: 桂枝去桂加茯苓白朮湯についての少考, 漢方診療, **7**, 57-59, 1988
- 16) 土本重: 治験三例 一, 流感 二例 二, 歩行障害, 漢方の臨床, **7**, 465-467, 1986
- 17) 鈴木弘明: 桂枝去桂加茯苓白朮湯追証 (自験), 漢方の臨床, **23**, 547, 1976